

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

熊本県における肝疾患コーディネーターの養成ならびに活動向上に向けた
実態調査と支援

研究分担者 田中靖人 熊本大学生命科学研究部消化器内科 教授

研究要旨

【背景】熊本県では2015年より肝疾患コーディネーター（以下肝Co）を養成しており、その数は年々増加している。これまで2018年、2019年に肝Coを対象としたアンケート調査を実施し、活動の現状と問題点を抽出してきたが、コロナ禍において活動内容に変化が生じていることが予想される。実態を把握するとともに、必要とされる支援の提供を目的とする。また、2次医療圏毎の職種別配置状況を検討した結果、A医療圏で臨床検査技師が、B医療圏で薬剤師が不在であった。それぞれの医療圏での臨床検査技師および薬剤師肝Co養成を目指す。

【方法】1) 熊本県内の肝Co 386人を対象に、活動内容、活動できていない場合はその理由、必要な支援などについてのアンケート調査を行った。2) 熊本県臨床検査技師会研修会およびB医療圏での多職種連携研究会にて肝Coの必要性と役割について講演を行った。

【結果】1) 68.9%の肝Coが活動できていた。一方、活動ができない理由としては、コロナ禍の影響もあり活動の場がない、時間がない、何をしたらよいかわからないという回答が多く、具体的な活動の場や事例の情報提供が望まれていたため、啓発活動や研修などのイベントを開催した。2022年度は熊本市内での開催であったため、熊本市外の肝Coの参加が困難であったが、2023年度は熊本市外でも開催し、多くの肝Coの参加を得た。2) A医療圏で、新規3名の臨床検査技師を、B医療圏で、新規3名の薬剤師を肝Coとして養成した。

【結語】今後は、さらに地域でのイベント開催を増やす予定であるが、自発的活動がその後も継続して行われるためには、地域の肝Coが計画立案から主体的に参加することが重要であると考えられる。

A. 研究目的

熊本県では、2015年より肝炎のみならず肝疾患全般に対する調整者としての活動を目的として、肝疾患コーディネーター（以下肝Co）という名称で育成を開始し、その数は、2018年 396人、2019年 463人と増加している（3年更新制）。

これまで、肝Coに対して、2018年、2019年に活動内容、活動できていない場合はそ

の理由、必要な支援などについてのアンケート調査を行い、抽出された問題点の改善に努め、必要とされる支援を継続してきた。

しかし、コロナ禍において活動状況に変化が生じていることが予想され、今回改めて、肝Coを対象に活動状況等についてアンケート調査を行い、実態を把握するとともに活動支援を目的とした。

また、肝Co養成においては、2次医療圏毎

の職種別配置状況を検討した結果、A 医療圏で臨床検査技師が、B 医療圏で薬剤師が不在であった。それぞれの医療圏での臨床検査技師および薬剤師肝 Co 養成を目指す。

B. 研究方法

1) 熊本県内の肝 Co 386 人を対象に、2021 年 6~7 月にアンケート調査（添付資料①）を行った。アンケートは、各肝 Co 宛に郵送し、記載後に返信することで回収した。

2) 2021 年 8 月 29 日に熊本県臨床検査技師会研修会で、2021 年 9 月 9 日に B 医療圏での多職種連携研究会にて肝 Co の必要性と役割について講演を行った。

C. 研究結果

1) 90 人（23.3%）から回答を得た。68.9%（職場内外：11.1%、職場内：56.7%、職場外：1.1%）が肝 Co としての活動ができていた。その内容としては、パンフレット等の掲示・配布（45.6%）やコーディネーターバッジの着用（34.4%）、肝炎医療コーディネーター活動応援団（LINE）への参加（34.4%）などが多かった。また、個別に院内で肝炎ウイルス検査陽性者をリストアップし、オーダー医へ還元している肝 Co や、肝炎対策チーム設置を検討している肝 Co、腹部超音波検査にて脂肪肝を認めた方への病態説明を行ったり、肥満や糖尿病患者への栄養指導時に脂肪肝のスクリーニングを勧めている肝 Co などがいた。2019 年のアンケート調査（回答率は 32.2%（124/385））では、70.1%（職場内外：18.5%、職場内：47.6%、職場外：4.0%）が肝 Co としての活動ができていたと回答していたが、その割合に有意な低下は認めなかった。

一方で、活動できていない理由としては、職場内外では、時間がない、何をしたらよいかわからない、職場外ではコロナ禍の影響で活動の場がないという回答が多く、具体

的な活動の場や事例の情報提供が望まれていた。

そこで、活動の場として以下の啓発イベントを開催した。（）内は参加肝 Co 数
2021 年

7 月 18 日 熊本市内商業施設（13 名）

- ・くまモン（熊本県営業部長兼しあわせ部長）とともに、肝臓病教室（肝臓病の話、肝炎体操）
- ・血圧、体組成、血管年齢測定
- ・肝臓病のパネル展示
- ・専門医による無料相談
- ・肝炎ウイルス検査・脂肪肝啓発のポケットティッシュおよびうちわ等の配布

11 月 6 日 熊本市内商業施設（11 名）

- ・簡易検査キットを用いた肝炎ウイルス検査 70 名に実施し、陽性者 0 名
- ・専門医による無料相談
- ・肝炎ウイルス検査・脂肪肝啓発のポケットティッシュおよびマスクケース等の配布

2022 年

4 月 17 日 熊本市内商業施設（6 名）

- ・簡易検査キットを用いた肝炎ウイルス検査 30 名に実施し、陽性者 0 名
- ・専門医による無料相談
- ・肝炎ウイルス検査・脂肪肝啓発のポケットティッシュおよびマスクケース等の配布

6 月 26 日 玉名市内商業施設（9 名）

- ・くまモンとともに肝臓病教室
- ・簡易検査キットを用いた肝炎ウイルス検査 30 名に実施し、陽性者 1 名
- ・体組成測定
- ・肝臓病のパネル展示
- ・専門医による無料相談
- ・肝炎ウイルス検査・脂肪肝啓発のポケットティッシュおよびうちわ等の配布

7 月 3 日 熊本駅前広場（17 名）

- ・肝炎啓発トークイベント（*）

HKT48 の地頭江音々氏、田中伊桜莉氏、
くまモン、田中靖人（肝臓病の話、肝炎
体操）

- ・ 簡易検査キットを用いた肝炎ウイルス
検査 50 名に実施し、陽性者 0 名
- ・ 血管年齢測定
- ・ 肝臓病のパネル展示
- ・ 専門医による無料相談
- ・ 肝炎ウイルス検査・脂肪肝啓発のポケ
ットティッシュおよびうちわ等の配布

12月3日 熊本市内ホール（17名）

- ・ 肝炎啓発トークイベント（*）

（第 120 回日本消化器病学会九州支部
例会特別企画）

高橋みなみ氏、大西一史熊本市長、田中
靖人

（*）熊本市が、厚生労働省「知って、肝
炎プロジェクト」の令和 4 年度積極的広報地
域に選定されたため、その一環として共催し
た。

なお、熊本大学病院肝疾患センターで
は、2020 年 12 月に、肝硬変・肝がんの成
因として増加傾向にある脂肪肝への対策と
して、「脂肪肝早期発見・治療サポートプ
ロジェクト in Kumamoto（熊本脂肪肝プロ
ジェクト）」を始動し、FIB-4 index を簡
単に計算できる WEB サイトを作成し、脂肪
肝の方が速やかかつ簡便に肝疾患専門医療
機関を受診でき、必要に応じて治療を受け
ることができる体制を確立しているが、前
述のポケットティッシュやマスクケースな
どには、脂肪肝の説明とともに FIB-4
index 計算サイトの案内も添付した。



また、啓発活動の一環として、以下のメデ
ィアにて広報活動を行った。

2021 年

4月1日

テレビ熊本「タウン TOWN」出演
熊本肝炎・脂肪肝プロジェクト

7月3日

くまにちあれんじ

「今どうなっている？肝炎・肝がん」

7月22日

週刊文春「肝疾患の診断と治療で頼れ
る病院・クリニック」

10月から1年間

モニター広告（熊本市役所などで）熊本
肝炎・脂肪肝プロジェクトについて

11月

2022 年度最新版「新時代のヒットの予
感!!」に選出 熊本脂肪肝プロジェク
ト

12月30日

朝日新聞 熊本肝炎・脂肪肝プロジェ
クト

2022 年

1月1日

読売新聞 熊本脂肪肝プロジェクト

9月1日～9月28日

熊本市電（運転台裏）広告 熊本脂肪肝
プロジェクト

11月19日～12月16日

熊本市電（戸袋、運転台裏）広告
熊本脂肪肝プロジェクト

2023 年

1月3日、11日

朝日新聞 熊本脂肪肝プロジェクト

1月17日

熊本日日新聞 熊本脂肪肝プロジェク
ト

1月20日～2月19日

Web 広告 (yahoo)

さらに、2021年9月19日ならびに2022年9月11日実施した肝Co養成講座・研修会では、講義による肝疾患全般に関する知識習得とともに、パネルディスカッションにて各職種毎の活動事例の提示などが行われた。また、2021年10月24日に実施した肝Coフォローアップ研修会では、「肝Coとしての役割を考える」をテーマにグループワークを行い、これまで肝Coとしてできた活動、できなかった活動とそれぞれの理由をディスカッションし、アクションプランの作成を行った。アクションプランは研修会後にLINEグループを作成、共有し、実践報告を行った。その1例として肝Coが居住校区の回覧板に肝炎や脂肪肝を啓発するパンフレット等の掲示の依頼をし、390部の資料配布が実施された。肝Coが自治会長への趣旨説明、掲示依頼文の作成などを行い、当肝疾患センターは、依頼文の承認と掲示資料の提供にて支援を行った。

これらのイベントや研修会の情報は、肝炎医療コーディネーター活動応援団(LINE)を活用し案内を行った。

2) 2021年9月19日に開催した肝Co養成講座では、112名を新規養成し、A医療圏で、3名の臨床検査技師を、B医療圏で、3名の薬剤師を養成した。

D. 考察

2019年のアンケート調査と比較し、肝Coとしての活動ができていると回答した割合に低下は認めなかった。しかし、回答率に大幅な低下を認めた。その理由のひとつに、活動ができているがゆえに未回答とされていることが推測され、実際の活動率はより低い可能性が考えられる。今回、アンケート調査で求められていた活動の場の提供として様々な啓発活動を、事例の情報提供とし

てパネルディスカッションやグループワークなどを行った。2022年度は熊本市内での開催であったため熊本市外の肝Coの参加が困難であったが、2023年度は熊本市外でも開催し、多くの肝Coの参加を得た。今後は、さらに地域でのイベント開催を増やす予定であるが自発的活動がその後も継続して行われるためには、地域の肝Coが計画立案から主体的に参加することが重要であるとする。啓発活動においては、簡易検査キットを用いた無料肝炎検査を実施しており、現在まで180件中1名の陽性者を認めている。今後のイベント開催予定地域には、HCV蔓延地域も含まれており、肝炎ウイルス検査を継続することは、感染者の拾い上げに繋がるものとする。

一方、肝Coの活動内容には、肝炎のみならず、脂肪肝を対象とした疾患啓発も含まれていた。職種にもよるが脂肪肝患者あるいはその可能性のある生活習慣病や肥満を有している方との接触の機会は多く、今後も脂肪肝を含めた肝疾患の啓発、指導が広く展開されることが期待される。

E. 結論

肝疾患全般に対するケアに肝Coが積極的に参加できるための支援を継続する。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

瀬戸山博子、立山雅邦、田中靖人 WS16-15
：熊本県における肝がんハイリスク患者地域、職域、院内での拾い上げ 第107回日本消化器病学会総会抄録集 A213

野村真希、川崎剛、田中靖人 SP2-2-11：当県における肝疾患コーディネーターの取組

み 第 57 回日本肝臓学会総会講演要旨
A243

野村真希、渡邊丈久、吉丸洋子、瀬戸山博子、
田中靖人 SP2-0-16：肝炎医療コーディネ
ーターを中心とした HBV 再活性化予防の当
院における取組み 第 58 回日本肝臓学会
総会講演要旨 A221

野村真希、吉丸洋子、瀬戸山博子、田中靖人
SP-0-3：当県における肝疾患コーディネ
ーターの活動と課題 第 120 回日本消化器病
学会九州支部例会抄録集 86

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

